

たどつのもかし

Vol.10(H25.1 2.1 3)

「多度津の鉄道遺産群2」

2回目はJR多度津工場内から紹介します。ここには職場棟3棟・諸舎1棟・会食所1棟・倉庫2棟があります(配置図)。

今回は3つある職場棟を紹介します。まず職場15号は明治21年竣工とされており、現在の場所には昭和16年ごろに移築されました。建物内部の構造は天井が貼られておらず、キングポストラス(下弦が三角形の底辺を、上弦が三角形の2辺を構成し、三角形の頂点から下弦に向けて垂直材を備える工法)工法の小屋組みがされており、堅牢な小屋組みとし10mを超える梁間を1スパンで架構され、昭和初期の他の建物とは異なる工法で建造されています。

職場17号は昭和6年に建造された貨客車の修繕等を行う施設です。内部には線路を引き込んでいます。また工場内の戦前の建物の中で最大規模のものです。大建屋内には建造当初から設置されていた移動式のクレーンが2基あり、現在も車両整備のために稼働しています。

職場34号は蒸気機関車の修繕場として昭和14年に建てられた施設です。切妻屋根に

JR多度津工場 職場15号	木造平屋建、波形スレート葺、建築面積522.6㎡、明治21年(1888年)
JR多度津工場 職場17号	鉄骨コンクリート造2階建、シート防水葺、建築面積5216.5㎡、昭和6年(1931年)
JR多度津工場 職場34号	鉄骨造、平屋建、波形スレート葺、建築面積713.6㎡、昭和14年(1939年)

は採光のためのバタフライ屋根が立ち上げられています。

大規模な工場施設を構成す

ることから旧日本国有鉄道時代を通じて多度津工場が四国内の路線を支える重要な機能を担い続けていることを示す構造物群として評価することができます。



職場15号外観



職場15号内部天井



職場34号外観



職場17号外観



職場34号内部



職場17号内部